種鶏管理

ひなの育雛

食欲と飲水行動を刺激し、生理学上の体重を達成する

照明

- 均一な照明
- 最初の数日間は最小60ルクス
- 1日目24時間点灯、または可能であれば2時間30分点灯と30分消灯のサイクルで
- 下記の表の通り、点灯時間と照度の点で光線を減少させていく

密度/分布

- 収容密度：　25～30羽／㎡
- 床面積を3段階に分けて拡張する
- ひなが鶏舎全体に均一に広がるように

給餌

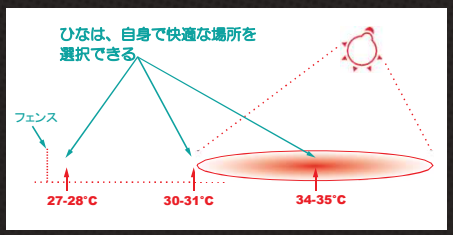
- 50～70羽／1給餌器あたり
- 新鮮な飼料（ｽﾀｰﾀｰﾏｯｼｭ）を定期的に補充し、食欲を刺激する
- 床面の餌付け用敷紙に敷面の50%に飼料を撒く
- 6～8日齢でチェーンフィーダーを使用開始
- 素嚢（そのう）を確認する。24時間後、95%のひなの素嚢が満たされ、柔らかく膨らんでいなければならない

温度

- 500羽／ブルーダー1台
  入雛時の周囲温度　31～32℃
- 定期的に温度を下げ、5週齢で20℃にする

飲水

- 50～70羽／ドリンカー1台
- ドリンカーの水は、周囲温度の24-26℃
- 理想のpH 値は 6.0 と 6.8で、酸化還元最適値が600mV及び／あるいはパイプ始点の塩素濃度が0.25～0.5ppm
- ニップル ： 高さと水圧を確認する
- ドリンカー： 高さと水量を確認する（最高2cm）



日　齢		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
温度	ヒーターの下	35～36				32～34				28～30						
	活動エリア	28	28	28	28	28	27-28	27-28	27-28	25～26						
	周辺環境	31-32	30-31	29-30	28-29	28-29	26-27	26-27	26-27							
湿度	%	50～60														
設備	ドリンカー	ﾄﾞﾘﾝｶｰ1台につき60羽／ﾆｯﾌﾟﾙ1個につき8羽								ﾗｳﾝﾄﾞﾄﾞﾘﾝｶｰ1台につき80羽 / ﾆｯﾌﾟﾙ1個につき8～10羽						
	給餌器	給餌器1台につき50～70羽								1羽につき6～8 cm、または100羽につき3～4 m 給餌プレート1台につき6羽*						
密度	㎡当たりひな数	25～30羽				12羽				5～8羽						
光線	点灯時間【Classic、Flex、H1一般ブロ種鶏】	24	24	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11-12**	8-12**
	点灯時間【JV、F15一般ブロ種鶏】	24	24	22	20	18	16	14	12	10	8	8	8	8	8	8
	点灯時間【プレミアム種鶏】	24	22	22	20	20	18	18	16	16	16	16	16	16	16	16
	照度　(ルクス)	60	60	60	60	40	30	20	15	10	10	10	10	5-10	5-10	5-10

*　種鶏の行動に合わせて給餌スペースを調整する

**　オス、メスの目標体重が7日齢で達成しない場合、2週齢の間に十分に点灯時間を維持する。開放鶏舎の場合、経験に基づいて対応する。